

所謂「胎毒下」ノ弊害

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38616

ド七ニ相當ス。

年 齡	膽石例數
二十年代	二 名
三十年代	一 名
四十年代	一 名
五十年代	四 名
六十年代	六 名
七十年代	三 名
八十年代	一 名

但シ右表中六十年代ノ者最多數ニシテ其六名中二名ハ男子ニシテ四名ハ女子ナリ故ニ女子ノミノ六十年代ノモノハ十八名ニ對スルニ二二二二二「プロセント」ナリ之ヲ「ボルリソングル」氏ノ報告ニ徵スルニ歐洲ニ於テハ六十年以上ノ女子ニ就テハ二十五乃至三十三「プロセント」ナリト云フ、上記ノ事實ニ據リテ考フレバ本邦殊ニ北陸地方ニ於ケル膽石例數ハ歐洲ニ於ケルガ如ク比較的高老者殊ニ老婦ニ多クシテ又解屍ノ際偶然ハラ發見スルコトアルハ決シテ少ナシト云フヲ得ズ故ニ人ノ言フ如ク本邦ニハ膽石病トシテ臨床上ニ之ヲ見ルコトハ或ハ少ナカラシモ解屍上ヨリ觀ルトキハ歐洲ニ於ケルト同ジク其實例多數ナリト云フモ敢テ不可ナカルベシ、

○所謂「胎毒下」ノ弊害

特別會員 岡本京太郎

(澤金)

一般幼兒ニ其健否ヲ問ハズシテ胎毒下シノ目的ニ種々ノ賣藥ヲ與フル弊習アルハ皆人ノ知ル所ナリ醫師ノ言未タ全ク俗耳ニ容レラザルカ今日尙此習慣ノ驚クベキ信用ヲ以テ民間ニ行ハレツツアルハ是非モナシ同朋ノ愛兒即チ未來ノ國民ノ幾多ガ不知不識ノ間之カ爲メニ損害

ヲ蒙ルヤ蓋シ鮮少ナラサルベシ斯道ニ從事スルモノハ宜ク大ニ這般ノ弊習ヲ破棄スルニ努ムベキナリ先ニ弘田博士三輪博士等此種ノ賣藥ニ屬スル「マクリ」ナルモノ、害毒アル例ヲ擧ケテ世人ヲ戒メラレタルハ大ニ感謝スベキコトナラズヤ余ハ近來我金城療病院藥局長八十島氏ニ依頼シテ病苦ヲ惹起セル當該賣藥ノ分拆ヲ乞ヒ甚タ寒心スベキ結果ヲ得タリ依テ單簡ニ其病歴ヲ添ヘテ試験成績ヲ記載セントス

病歴 塚本某女兒滿二年 三十七年一月二十九日初診

昨年夏左耳漏ニ罹リ醫療ニヨリテ輕快セシカ本年初ヨリ再發セシヲ以テ胎毒ト信シ數日前ヨリ胎毒下ト稱スル虎肉圓ナル丸藥ヲ二粒宛一日三回服用セシメツアルニ爾來夜間數回發作性ニ號泣シ横臥位ニテハ哺乳セス大便一日二三回下痢ス哺乳スルモ攝食セス嘔吐ナキモ少ク咳嗽アリ扁桃腺腫脹腹部甚シク緊滿シ深部ノ觸診殆ト不可能ナリ特ニ心窩部膨隆ス但シ壓痛ナキカ如シ大便ハ液狀汚穢暗灰白色ニシテ脂肪多シ熱ナク耳疼痛ナキカ如シ而シテ他ニ害因トシテ徵スベキコトナカリシヲ以テ所調賣藥ニ因スル胃腸加答兒ト診斷シ彼ノ賣藥ヲ嚴禁シ硝蒼ザロール劑及鹽里茂百布聖劑ヲ處セリ同夜ヨリ更ニ「コーリック」發作ナク安眠シ漸次食欲増進シ嬉戯スルニ至レリ大便モ亦次第ニ良性トナリ二月三日ニ少ク黃色ヲ帶ヒ六日ニ及ンテ硬糞一日一回トナリ腹緊滿モ從テ消退セリ

患兒ノ母ヨリ右虎肉圓ノ殘包ヲ得タルヲ以テ包紙ニ記セル主治効用及用法ヲ見ルニ曰ク「抑此藥は古より傳來小兒胎毒一切の妙法にして云々」(中略)「飯令無病の小兒たりとも常々養生の爲め

用ひ置くときは生長の後諸々の「カサ」腫物の愁なし云々(中略)用法一才の子には毎日一粒宛三度
 二才子には二粒宛三度成長に隨ひ年の數に應し素湯にて用ゆべし云々(下略)ト由是觀之本藥ハ
 特ニ小兒ノ爲ニ製造セラレシモノ也依テ直ニ八十島氏ニ鑑定ヲ乞ヘリ氏ノ試驗成績左ノ如シ
 賣藥試驗成績

一 虎肉圓

一包

營業人

〇〇〇〇

一 右賣藥ハ別紙添付シタル紙ヲ以テ包ミ規定ノ賣藥印紙ヲ貼付シアリ

一 明治三十七年二月三日何某氏ヨリ鑑定ノ依頼ヲ受ケ其試驗ヲ施行スルニ成績左ノ如シ

外觀

一本品ハ微ニ油様ノ光輝ヲ有スル暗褐色ノ細丸ニシテ乾固狀ヲ呈セリ而シテ一包中四十一粒ヲ

有ス

重量

一本品一丸ノ重量ハ約〇.〇〇五瓦ニシテ又一包ノ重量ハ〇.二〇五瓦ナリ

臭味及反應

一本品ノ一小粒ヲ齒間ニ於テ咀嚼スルニ稍甘味ヲ覺ヘリ暫時ノ後著ク辛辣ヲ來シ數時間ヲ經
 テ消退セリ又本品ノ反應ハ酸性ヲ徵セリ

試驗

一本品大約三分ノ一量ヲ取り依的兒ヲ以テ能ク浸出シ其浸出液ヲ蒸發スルニ淡褐黃色ノ油狀

物ヲ留ム而ノ茲ニ得タル殘留油狀物ハ一般植物油ニ類スル臭氣ヲ備ヘリ此少量ヲ舌上ニ附スルニ初メ緩和ナルモ暫時ノ後燒刺ノ感ヲ起シ漸々ニ其度ヲ増シ大約五時間ヲ經ルノ後全ク消退セリ

一前項ニ於テ得タル所ノ油狀物ヲ自己ノ手膊ニ塗布シ約六時間ヲ經テ之ヲ驗スルニ細小ナル腫狀物ヲ生シテ引赤セリ而シテ此亦小腫ハ翌日ニ至ルモ尙依然タリ

以上ノ反應ニ依リ考フルトキハ淡褐色油狀ノ殘溜物ハ巴豆油ナラント鑑定ス其他一般分拆法ニヨリ之カ試驗ヲ施行スルニ本劑中ニハ他ニ劇毒藥ノ存在ヲ認メス

右試驗ハ明治三十七年二月三日着手同年同月七日終了ス

月 日

八十島庄五郎

如此夫レ右虎肉圓ナルモノニハ巴豆劑ヲ證明シ得タリ特ニ其對小兒藥トシテ用井ラレタル豈寒心セサル可ケンヤ

病歴 長澤某男兒齡三ヶ月 三十七年一月十一日初診

分娩後母乳等ニ變常ナカリシモ俗習ノ如ク先ツ糖湯及艾浸ヲ與ヘ爾來少ク吐乳アリシカ三週間ヲ經テ鷺口瘡ヲ生セシヲ以テ二十日前ヨリ胎毒下犀角治涼圓ナル煉劑ヲ與ヘツ、アリ爾來哺乳ニ際シテ號泣シ又時々發作性叫啼アリ大便下利シ粘液様灰白黃色ヲ呈シ吐乳増加シ夜間膝上ナラテハ横臥シテ眠ラス鷺口瘡益々増加シ漸次羸瘦スト顔貌蒼白脂肪少ク筋發育惡ク口

粘膜一汎ニ鷺口瘡ヲ以テ被ハレ舌繫帶稍短心窩緊滿スルモ壓痛ナシ陰囊乾痂ヲ被リ鼠蹊腋窩頸頂ニインテルトリゴヲ現ハシ糞ハ黃褐色粘稠ニシテ酸性胆汁反應著明少ク蛋白反應アリ鏡下粘液塊鷺口瘡菌ヲ見ル目下母ニ脚氣ナク泌乳十分体重九百匁ナリ依テ所謂胎毒下ナル賣藥ニ因スルヂスベアシート診斷シ其服用ヲ嚴禁シ鹽里茂ペプシン劑ト硼酸水ノ口内洗滌ヲ處シ入浴セシメシニ翌日ヨリ號泣吐乳及鷺口瘡減シ十四日ニ至リ吐乳下利止ミ鷺口瘡消失シ更ニ發作性號泣ナク氣嫌ヨク哺乳如常安眠ス只便尙粘液性ナルノミ二十八日ニ至リ常糞トナリ毫モ胆汁反應ナク体重九百三十匁トナリシヲ以テ休藥ス

依テ犀角治涼圓ナルモノヲ求メテ其効能書ヲ見ルニ曰ク「小兒一切胎毒より發る病を治す○頭瘡、禿瘡、黃胆、聾耳、口瘡、遺毒、走馬牙疳、鷺口瘡、胎毒、眼痘瘡、麻疹の餘毒○大人……中畧……服法は小兒初生より三歲迄藥匁三分を一日に三度に四歲より七歲迄藥目八分を一日に三度に……下畧……」ト故ニ本藥ハ特ニ小兒ニノミ對シテ製セシニハ非サレトモ小兒胎毒下トシテ當地方ニ行ハル、モノ、中ニハ尤モ有名ナルカ如シ而シテ試驗成績左ノ如シ

賣藥試驗成績

一犀角治涼圓

一 種

○ ○ ○ ○ ○ 製

一右賣藥ハ袋入ニシテ表面ハ犀角治涼圓ノ名稱ヲ記シ裏面ニハ規定ノ賣藥印紙ヲ貼付シ而ノ藥品ハ貝入ニシテ別紙効能書ヲ以テ包被セラレ

一明治三十七年二月十九日之カ鑑定ヲ依頼セラル依テ其試驗ヲ施行スルニ成績左ノ如シ

外觀

一本品ハ舐劑ニシテ黑褐色ヲ呈シ濃稠越幾斯様ノ稠度ヲ有ス而シテ全量六五瓦ヲ有ス
臭味及反應

一本品ノ少量ヲ舌上ニ取り之ヲ驗スルニ甘味中一種ノ苦味及大黃ニ類スル特異ノ臭氣ヲ有ス
且ツ唾液ヲ黃染セリ而シテ本品ノ反應ハ酸性ヲ呈セリ

試驗

(一) 本品ノ少量ヲ熾灼スルニ「カロメル」ニ類スル焦臭ヲ放チ次テ澱粉ヲ燃燒スル如キ臭氣ヲ發散
シ終ニ灰黑色ノ殘留物ヲ留ム

(二) 本品少量ヲ試驗管中ニ取り水ヲ加ヘテ溫浸スルニ其液黃色ヲ呈シ管底ニ稍多量ノ殘渣ヲ止
ム

(三) 前項ノ殘渣ハ黃色ニシテ植物性粉末ニ類似セリ而シテ尙他ニ黑褐色ノ物質ヲ含有セリ

(四) 本品ヲ顯微鏡下ニ照視スルニ充分ニ明視スルヲ得サルモ篩狀管及圓形ノ澱粉小粒ヲ有スル
植物性ノ粉末ノ他ニ黑褐色ノ鑛性物ヲ認視セリ

(五) 本品ノ水性浸液ニ稀鹽酸ヲ滴加スルニ其暗黃色ハ忽ニ鮮黃色ニ變遷セリ

(六) 本品ノ水性液ハ之ニ安母尼亞水ヲ加フルニ直ニ血赤色ヲ呈セリ

(七) 本品ノ酒精性液ニ苛性亞爾加里液ヲ加フルニ直ニ赤紫色ニ變セリ

(八) 本品ノ熾灼殘渣中ニハ碳酸石灰ヲ含有ス

- (九)本品ノ熾灼灰分ニ稀鹽酸ヲ加ヘテ微温ヲ與フルニ瓦斯ヲ發生スルノ後全ク溶解セリ
- (十)前項ノ鹽酸性液ハ黃色血滲鹽ニ依リ藍色ヲ呈セリ
- (十一)前項鹽酸性液ハ赤色血滲鹽ニ依リ青色ヲ呈セリ
- (十二)前項ノ鹽酸性液ニ苛性亞爾加里ヲ加フルニ灰白色ノ沈澱ヲ生シ終ニ赤褐色ニ變遷セリ
- (十三)本品ノ熾灼灰分ハ之ニ硝酸ヲ加ヘテ加熱スルニ帶赤褐色ヲ以テ溶解セリ
- (十四)硝酸酸性液ハ之ニ黃色血滲鹽液ヲ加フルニ直ニ深藍色ヲ呈セリ
- (十五)硝酸酸性液ハ之ニ赤色血滲鹽液ヲ加フルニ暗赤褐色ヲ呈セリ
- (十六)苛性加里液ハ硝酸酸性液ニ對シ暗褐色ノ沈渣ヲ生セリ
- 右記載シタル試驗ハ其大要ヲ記スルモノニシテ尙一般分析法ニ依リ之カ驗查ヲ施行スルニ他ニ有毒物及其他ノ物質ノ存在スルヲ認メス而シテ以上ノ成績ニ依リ本品中ニハ鉄粉及ヒ大黃末ノ混合物ヲ單舍利別ヲ以テ粘合シタルモノト鑑定ス
- 一以上ノ試驗ハ金澤市彥三町金城療病院ニ於テ施行シ明治三十七年二月十九日着手全年全月二十三日結了

明治三十七年二月二十五日

鑑定人

八十島庄五郎

右ノ外余ハ同氏ニ依頼シテ尙四種ノ鑑定ヲ乞ヒシニ左ノ成績ヲ出セリ

たいどく下し明治丸 (對小兒藥ニ巴豆油、甘汞及大黃ヲ證明シ)

瘡下し胎毒丸 (主トノ對小兒藥ニ巴豆油、枸橼酸鉄及大黃ヲ證明シ)

小兒胎毒丸

(對小兒藥)ニ巴豆油、大黃及硫化水銀ヲ證明シ

キンドル丸

(對小兒藥)ニ甘汞、炭酸マグネシヤ、大黃ヲ證明ス

之カ試驗ノ詳細ハ氏自ラ發表セラル、ナルベシ

以上ノ記述ニヨリテ今迄余等ノ信セシ「賣藥ハ無害ナラン」トノ考ハ餘リニ樂天的ナリシヲ知レリ鉄粉ト大黃ヨリ成ル通常藥スラ己ニ「ヂスベプシー」ヲ惹起シテ兒ノ發育ヲ害セリ彼ノ巴豆劑カ胃腸加答兒ヲ喚起セシ如キハ素ヨリ其所ナリ賣藥ノ安ンス可ラサル斯ノ如シ然レモ一汎賣藥ハ法規ニ從テ調製スルモノナレハ余ハ之ヲ以テ原造者ガ如此危險ヲ敢テシタリト信スルニハ非ス又奸商ナルモノアリテ而カク偽造セシモノナリヤ否ヤヲ問フニ非ス只要スルニ坊間ニ行ハル、賣藥中時ニ危險ナルモノアルガ故ニ特ニ小兒ヲ療スル醫師ハ深ク此点ニ留意センコトヲ欲スル而已終ニ望ンテ余ハ八十島氏カ至難ナル此分拆ヲ遂行セラレタルノ勞ヲ謝ス

前號 正誤

頁	行	誤	正	頁	行	誤	正
七	左ヨリ五行	日	白	全	右ヨリ五行	狀ヲ重ク	狀カ重ク
全	左ヨリ四行	×	ズ	全	右ヨリ六行	甚シクノ下	「大ク」キ脱ス
八	右ヨリ二行	ハ	ズ	全	右ヨリ九行	上記ヲ	上記ノ
全	右ヨリ六行	脾	痺	全	左ヨリ二行	爛	爛
全	右ヨリ九行	脊髓ノ下	「炎」ヲ脱ス	十一	右ヨリ六行	保テ	保チ
全	左ヨリ三行	何	前	全	左ヨリ六行	現ハシ	現ハレ
全	左ヨリ二行	舉	拳	十二	右ヨリ三行	ア	ブ

九 右ヨリ八行 ヨリ
 全 左ヨリ二行 下腿ハ
 十 右ヨリ二行 落テ元ヨリ殆
 全 右ヨリ三行 關節シ
 ヨク 下腿ト
 落テ殆
 關節ニ

全 右ヨリ五行 癩 (以下同シ)
 全 右ヨリ六行 盧 膚
 十三 右ヨリ一行 至 經

○横位分娩ノ一例

特別會員 藤岡勝治

(洲珠)

明治三十六年七月十七日隣村某ナルモノ分娩困難ノ故ヲ以テ余ノ來診ヲ乞フ乃チ車ヲ驅リテ赴ク既ニ着シ診スルニ患者年齡三十六歲五回ノ經産婦ニシテ十六歲月花始メテ開キ爾來整然タリ昨年十月以來經閉。妊娠經過異常ナク昨日午前八時頃ヨリ陣痛發作シ來リシモ余ノ到着前後ニ於テ殆ント休止シタリ精診スルニ第一横位ノ第一分類ニシテ胎兒ノ心音ハ聽ク能ハズ母體ノ脈膊百二十、体温三十七度五分陣痛最モ微弱ニシテ陰門ヨリ胎兒ノ右上肢露出セリ余ハ暫時思ヒ迷ヒタリ斯ル患者ニ於テ素ヨリ自然ノ分娩機轉ヲ期待スベクモアラズ須ラク産科的手術ヲ決行セザル可カラザル事明カナレドモ回轉術ヲ行フベキカ將タ斷頭術若クシハ切胎術ヲ行フベキカ乍併未ダ遷延性横位ニモ非ザルガ故ニ先ヅ回轉術ヲ行フニ決シ導尿後全手ヲ膈内ニ挿入シ子宮内ニ至リ頸位ニ回轉シ鉗子ヲ用ヒ娩出セシメント謀リタレモ高在頸ナルヲ以テ遂ニ其ノ目的ヲ達スル克ハズ且ツ危險漸ク迫リ來リシカ故ニヤムナク穿顱器ニテ穿顱シ「イル